

**【第251号 紙面案内】**

第2面 ……第1回常任理事会報告、平成20年度年次総会案内

第4～5面 ……第57回全国研究大会プログラム

第6面 ……第58回全国研究大会自由論題募集

第8面 ……第10回産学交流シンポジウム報告

経営関連学会協議会 第1回シンポジウム

当学会名誉会員 飢富 順久（和光大学）

平成20年3月28日（金）13時30分から、明治大学駿河台校舎リパティータワー6階1063教室にて、経営関連学会協議会（理事長 貫隆夫氏（大東文化大学））第1回シンポジウム（後援：日本経済新聞社）が開催されました。本協議会は2006年11月、第19期日本学術会議の会員により発足いたしました。現在は、経営・会計・商学3分野の59学会によって構成されています。すでに2回ほど評議委員会にむけて講演会を開きましたが、本格的なシンポジウムは今回が初めてです。当日はご多忙中にもかかわらず本学会からも多くの参加をいただきました。本協議会副理事長を務めます私といたしましては、ご理解をいただいた会員各位に衷心より御礼を申し上げたいと存じます。

本シンポジウムでは、基調講演、特別講演、パネル・ディスカッションと意欲的なプログラムを用意しました。基調講演では、上村達男氏（早稲田大学）より「企業・市場・市民社会—日本の挑戦」の講演をいただきました。法学者からみた資本市場と社会との関わりについて斬新な見解に感銘を受けました。特別講演では、乾晶稔氏（アフラック日本社会長）より「企業ヘレニズム」のタイトルで、自らの体験をもとに、グローバル企業の経営について興味深い貴重なお話をうかがうことができました。多数の質疑が交わされ極めて中身の濃いものであったと思います。

その後、パネル・ディスカッションが行われました。村田晴夫氏（青森公立大学）より「開かれた経営とは何か」、増田宏一氏（日本公認会計士協会会長）より「経営とディスクロージャー」、宅間克氏（株企業美学センター社長）より「新時代の経営指針」、それぞれのテーマで問題提起がなされ、これにたいして会場からの質疑も活発に行われ大いに盛り上がりました。野村健太郎氏（愛知工業大学）から総括を、松原成美氏（専修大学）から閉会の辞をいただき、盛況のうちにシンポジウムは終了しました。

なお今後は年1回程度、3分野共通の問題を選び、東京以外でも開催したいと理事の一人が熱く語っていたのが印象的でした。

第 1 回常任理事会報告

平成20年 3 月15日(土)、東洋大学5304教室において、平成20年度第 1 回常任理事会が開催されました。以下、その内容を報告します。

(1) 第57回全国研究大会について

第57回全国研究大会(6月27日～29日;千葉商科大学)のプログラム案などの準備状況について報告が行われた。

(2) 日本経営教育学会研究活動規範(案)について

日本経営教育学会研究活動規範(案)が提示され、作成に至る経緯、目的、趣旨等について説明があった。使われている文言、項目の配列等に関して議論がなされ、取り扱い等に関して検討を加えた上、6月の理事会での議を経て会員総会に報告されることになった。

(3) 30周年記念事業について

30周年記念事業に関して、「実践経営学」を軸に3～4冊のまとまった書物の形で記念出版を行い、30周年記念大会を東洋大学で行う予定であることが説明された。

(4) 会員の入退会について

会員の入退会について、新たに個人会員8名の入会申し込みと18名の退会の申し出、法人会員1社の退会の申し出があり、それぞれ承認された。本常任理事会承認分を併せて、個人会員801名、法人会員8社となった(平成20年3月15日現在)。

(5) その他

関東部会が5月10日(土)に成城大学で、経営関連学会協議会第1回シンポジウムが3月28日(金)に明治大学リバティタワーで行われることが紹介された。

平成20年度年次総会のご案内

新緑の候会員の皆様におかれましてはご健勝のこととお喜び申し上げます。

下記の要領にて平成20年度年次総会を開催いたしますので、ご出席くださいますようお願い申し上げます。総会を欠席される場合は、必ず委任状をご送付くださるようお願いいたします。

記

1. 期日 平成20年 6 月30日(土)
2. 時間 9:40～10:20
3. 会場 千葉商科大学
4. 議題 (1) 平成19年度活動報告並びに収支決算の件
(2) 平成20年度活動計画並びに収支予算の件
(3) その他

以上

平成19年度第1回北海道部会報告

大平 義隆（北海学園大学）

平成19年度第1回北海道部会が、2月23日（土）に北海学園大学豊平キャンパスにて開催された。今回は、はじめての試みとして、経営哲学学会北海道部会との、合同部会として開催した。大雪の中にもかかわらず、北は網走、南は函館から総勢12名の参加で充実し、かつ大盛況のうちに終了した。

第1報告は、函館大学の日野隆生氏が、「経営教育と『販売士』育成」というテーマで行った。第2報告は、北海学園大学の平義隆氏が、「社会的緊張緩和と組織における人間行動について」というテーマで行った。

いずれの報告にもフロアからたくさんの質疑による活発な議論が行われ、実に意義深い時間を過ごすことができた。報告会終了後は、懇親会を開催し、さらなる情報の交換を行い、親睦を深めた。

平成19年度第2回中部部会報告

草田 清章（愛知産業大学短期大学）

平成20年3月8日（土）13時30分より、第37回中部部会が愛知産業大学名古屋サテライトで28名の参加者を得て開催された。

第1報告は、清剛治氏（弘前大学大学院）による「地域ラーニングシステムの創造によるエンジニア育成 ―ソーシャルキャピタルとヒューマンキャピタル―」司会・コメンテーターは、石毛昭範氏（岡崎女子短期大学）であった。清氏は、地域経済の発展を目指した地域における人材育成システムの枠組み、概念、考え方の提供について報告された。第2報告は、村橋剛史氏（朝日大学）による「課題解決型研修を効果的に実施する方法 ―大学での実施事例をもとにして―」司会・コメンテーターは、草田清章（愛知産業大学短期大学）であった。村橋氏は、求められる人材の変化に適合するため、大学における課題解決型授業導入の必要性について報告された。

また、第三報告は、杉山三七男氏（静岡産業大学）による「人間関係論の基礎の再検討 ―『意図の設定』の可能性―」司会・コメンテーターは、辻村宏和氏（中部大学）であった。杉山氏の報告は、初期の人間関係論の領域における調査研究のあり方について、新たな研究方向を示すことを目的としたものであった。

それぞれの報告終了後には活発な質疑応答がなされた。引き続き、辻村部会長を議長として会計報告および次回開催校などの連絡がなされた。

報告会終了後、多数の参加者のもと懇親会が盛大に行われ、特別参加の柿崎洋一・総務委員長（東洋大学）の乾杯の音頭で、和やかな雰囲気の中、会員間の交流が深められた。

日本経営教育学会第57回全国研究大会プログラム

統一論題「次世代経営者の育成と経営教育—企業と大学における理論と実践—」

第1日 2008年6月27日(金) 会場：千葉商科大学・丸の内サテライトキャンパス
 13:00～15:00 大手広告代理店からの現場報告 「誰が何を創ろうとしているのか」
 15:30～17:30 理事会

第2日 2008年6月28日(土) 会場：千葉商科大学
 9:00～16:30 大会受付
 9:30～9:40 開会挨拶 大会実行委員長 吉田優治(千葉商科大学)
 9:40～10:20 会員総会

| | |
|-------------|--|
| 10:30～11:20 | 統一論題1 |
| 報告者 | 佐伯雅哉(産能大学) |
| 報告テーマ | 新時代における実践的経営教育とその理論 |
| 11:30～12:20 | 統一論題2 |
| 報告者 | 砂川 大(株式会社ロケーションバリュー代表取締役CEO) |
| 報告テーマ | 起業までに何を学んだのか：大学、商社、ハーバード、ベンチャーキャピトル |
| 13:20～14:10 | 統一論題3 |
| 報告者 | 高木晴夫(慶応義塾大学大学院ビジネススクール) |
| 報告テーマ | 次世代経営者とは、教えるものか、育つものか |
| 14:20～15:10 | 統一論題4 |
| 報告者 | 尾原蓉子(財団法人ファッション産業人材育成機構・IFIビジネススクール学長) |
| 報告テーマ | ファッション・アパレル業界における次世代経営者の育成 |
| 15:10～ | 会長挨拶 小椋康宏(東洋大学) |
| 15:20～16:10 | アメリカ経営学会からの派遣報告 |
| 報告者 | Jim Stoner (Fordham University) |
| 報告テーマ | Management Education for Global Sustainability |
| 16:30～17:40 | 特別講演 |
| 報告者 | 島田晴雄(千葉商科大学学長) |
| 報告テーマ | 新しい大学教育モデルで次世代人材を育てたい |

18:00～20:00 懇親会 会場：本館7階大ホール

第3日 2008年6月29日(日) パネル・ディスカッションおよび自由論題プログラム
 9:00～14:00 大会受付

自由論題報告(大学院生)

| 9:30～10:10 | A 会場 | B 会場 | C 会場 |
|------------|-------------------------------|-------------------------------|--------------------------|
| 自由論題報告者 | 清水健太 (東洋大学大学院) | 京 宣 哲 (神奈川大学大学院) | 久保田潤一郎 (立教大学大学院) |
| 報告テーマ | コーポレート・ベンチャー・キャピタルの投資形態に関する研究 | 中国におけるコーポレートガバナンス原則と経営者教育システム | 内部統制における倫理・コンプライアンス教育の役割 |

10:20~11:40 パネル・ディスカッション (第1セッション) 自由論題 (第2セッション)
シンポジウム (A会場) 自由論題報告 (B会場)

| 10:20~11:40 | 第1セッション 【インターンシップ】 | 10:20~11:00 | 第2セッション |
|-------------|---|-------------|---|
| 第1報告者 | 小宮一慶 (株式会社小宮コンサルタンツ) 「企業が求める人材と企業研修」 | 自由論題報告者 | 古山徹 (日経メディアマーケティング) |
| | | 報告テーマ | 収益性構造の業種別特徴について |
| 第2報告者 | 小瀬川郷子 (明治大学就職・キャリア形成支援事務室副参事) 「大学における教育効果と学生の進路選択」 | 11:00~11:40 | 第2セッション (B会場) |
| | | 自由論題報告者 | 犬塚正智 (創価大学) |
| | | 報告テーマ | 日本型半導体企業の経営戦略—ファンダリーならびにファブレス企業の経営戦略からの教訓 |

12:30~13:50 パネル・ディスカッション (第2セッション) 自由論題 (第3セッション)
シンポジウム (A会場) 自由論題報告 (B会場)

| 12:30~13:50 | 第2セッション 【サービスイノベーション】 | 12:30~13:10 | 第3セッション |
|-------------|--|-------------|-------------------------------------|
| 第1報告者 | 荒木重雄 (株式会社千葉ロッテマリーンズ 執行役員事業本部長) 「ロッテマリーンズのファンサービス戦略と人材育成」 | 自由論題報告者 | 嘉味田朝功 |
| | | 報告テーマ | 21世紀に有効なKAEの確立へ向けて—新しい行動科学からのアプローチ— |
| 第2報告者 | 水野基樹 (順天堂大学) 「プロスポーツクラブにおけるサービスイノベーション人材の育成」 | 13:10~13:50 | 第3セッション (B会場) |
| | | 自由論題報告者 | 藤木善夫 (愛知産業大学) |
| | | 報告テーマ | M&Aの経済効果：サーベイ—買収規制と効率性を中心に— |

14:00~15:20 パネル・ディスカッション (第3セッション) 自由論題 (第4セッション)
シンポジウム (A会場) 自由論題報告 (B会場)

| 14:00~15:20 | 第3セッション 【ベンチャー・起業家育成】 | 14:00~14:40 | 第4セッション |
|-------------|--|-------------|--------------------------|
| 第1報告者 | 辻村 宏和 (中部大学) 『『起業後の成長=f (経営者の器)』 命題と経営教育 (学)』 | 自由論題報告者 | 速水智子 (中京大学大学院) |
| | | 報告テーマ | 社会企業家における長期的支援と育成の体制について |
| 第2報告者 | 内原康雄 (株式会社エヌシーネットワーク代表取締役) 「起業家としての軌跡と中小企業ネットワーク」 | 14:40~15:20 | 第4セッション (B会場) |
| | | 自由論題報告者 | 平井宏典 (東洋大学大学院) |
| | | 報告テーマ | ミュージアムにおける経験価値に関する研究 |

15:20 閉会挨拶 本学会組織委員長 加藤茂夫 (専修大学)

平成19年度第2回九州部会報告

篠原 淳（山口大学）

日本経営教育学会九州部会が、経営行動研究学会との共催で、平成20年2月23日(土)に福岡お茶の水医療秘書福祉専門学校で開催された。

第1報告では、「監査役は不要か」というテーマで中村学園大学の藤川祐輔氏より実務面での問題点を指摘する報告がなされた。

第2報告では、九州共立大学の八島雄士氏より「経営教育のあり方に関する一考察」と題するテーマで共立大学での教育面での貴重な取り組みと今後の経営教育への発展に関する報告がなされた。また、第3報告では、福岡工業高校の松尾裕一氏より「『情報途絶』におけるリスクマネジメントの一考察」というテーマで工学的側面からリスクマネジメントを報告され、今後の社会的アプローチにつながる貴重な報告となった。第4報告では、「借入金の質によるキャッシュ・フロー計算書の影響」というテーマで福岡ひびき信用金庫法人開発室の岡部勝成氏より、中小企業のキャッシュ・フロー計算書に対する考え方が示され、本来の役割とのギャップが示された。

以上のテーマについて活発な議論が行われ、部会終了後には懇親会が開催され、九州部会のさらなる交流が深まる会となった。

◇◇中部部会開催のご案内◇◇

平成20年度第1回の中部部会報告会は、平成20年11月8日(土)に、中部大学名古屋キャンパスで開催の予定です。部会では随時報告募集を行っております。

報告を希望される方は、事務局・草田清章（愛知産業大学名古屋サテライト 名古屋市熱田区金山1-6-9 TEL:052-683-0021 e-mail: kusada@asu.ac.jp）までお知らせください。

機関誌投稿論文募集

機関誌委員長 森川 信男

現在、機関誌第11巻第2号（5月末発行予定）の発行作業を鋭意進めています。引き続き、8月末日締め切りで機関誌第12巻第1号（12月末発行予定）への投稿論文を募集しています。会員の皆様の積極的なご投稿をお待ちしております。なお、ジャーナル化にともなって、今回の募集から字数制限が日本語原稿では16,000字以内となるなど、投稿規程が若干変更されますが、必要最小限の変更となります。詳細は後日お知らせいたします。

第58回全国研究大会自由論題募集

平成20年10月31日(金)～11月2日(日)に札幌大学にて開催される第58回全国研究大会での自由論題報告を募集します。下記要領に従ってお申し込みください。

《 応募要領 》

1. 応募資格：本学会の会員

ただし、1年以内に報告された方の応募はご遠慮ください。

2. テーマ：本学会の目的に沿う以下のもの

- ・経営体の諸活動に関する実践的経営の研究
- ・日本的経営および国際的経営の研究
- ・経営者・管理者の実践的能力を育成するための経営教育の研究

3. 応募書類：応募には表紙、報告要旨、参考文献の3点が必要です。

- ・表紙（A4サイズ1枚）……以下を明示してください。体裁は任意です。

①氏名（漢字・仮名およびアルファベット）

②報告テーマ

③所属（現職および職位）

④連絡先（自宅および所属先の電話番号・FAX番号、E-mailアドレス）

- ・報告要旨（A4サイズ、用紙縦置き横書きで2枚以内）

要旨には問題意識、論点、結論等を必ず含めてください。

①字数は2,000字（40字 30行）、10.5ポイント、余白は上下左右各25mm

②報告テーマはゴシック体、要旨は明朝体

- ・参考文献（A4サイズ1枚）……書式は報告要旨に準じます。

参考文献は内容と密接に関係するものにとどめ、関係の薄いものは控えてください。

上記書類を締切期日までに郵送または電子メールでお送りください。

4. 締切：平成20年7月4日(金) 必着

5. 応募先・問い合わせ先：

日本経営教育学会 第58回 全国研究大会委員長 加藤茂夫

〒102-0072 東京都千代田区飯田橋4-8-4 株式会社山城経営研究所内

TEL：03-3264-2100 FAX：03-3234-9988 E-Mail：name@kae-yamashiro.co.jp

第11回産学交流シンポジウム報告

松村 洋平 (立正大学)

平成20年3月1日立正大学大崎キャンパスにおいて、第11回産学交流シンポジウムが開催された。

第一報告のアジア太平洋マーケティング協会・代表の笠原英一氏による「新日本型経営模索、経営人材の育成と活用」は、笠原氏の豊富なコンサルティング経験をもとに、経営人材育成のための日本型OJTプログラムの構築を模索するものであった。強みである日本型OJTを経営人材育成に活用し、自社独自のコンテクストを共有させながら戦略的意思決定力の強化を狙うべきという主張であった。

第二報告の住友スリーエム(株)執行役員(財務担当)の昆政彦氏による「経営人材の育成と活用」は、昆氏が役員を経験してきたGE、ユニクロ、3Mの企業文化を比較しながら経営人材育成の方法に関する方向を検討したものであった。なかでも、圧倒的経営人材輩出実績を誇るGEの内部統制管理および社内コンサルタントとしての経営人材を企業内ビジネススクールなどを活用しながら熾烈な社内競争のなかで養成していく構図を浮き彫りにされていたのが印象的であった。

両報告の結論はある意味で両極をなすものと考えられるが、他方、経営哲学やビジョン、バリューといったものが経営人材育成に必要な不可欠であることは両報告に共通する重要な要素であったように思われる。報告後、福田昌義産学交流シンポジウム委員長のコーディネートのもと活発な質疑や討論が展開され、その知的興奮は懇親会にまで波及し、和気あいあいとしながらも経営人材育成に関する鋭い議論が絶えない懇親会となった。参加者一同、刺激をおおいに受けた一日であったと確信している。

本欄～会員の最新刊著書をご紹介します～

◎中村久人著『現代企業経営の解明—プロ経営者を目指す経営学』

八千代出版、2008年3月、2,940円(税込)

◎谷内篤博著『日本的雇用システムの特質と変容』 泉文堂、2008年3月、3,045円(税込)

◎水谷内徹也、内田康郎著『理念と戦略の経営学』 学文社、2008年4月、2,100円(税込)

※会員の皆様の最新刊著書を広くご紹介したいと思います。事務局まで情報をお寄せください。

機関誌投稿論文、日本経営教育学会山城賞および山城賞奨励賞、のお申し込みお問い合わせは事務局までお願いいたします。

編集後記

会報第251号をお届けします。全国研究大会自由論題への応募、機関誌への論文投稿、全国研究大会や部会への参加等々により、会員各位のご研究成果をご披露ください。

樋口弘夫・杉田あけみ

発行 日本経営教育学会

〒102-0072 東京都千代田区飯田橋4-8-4
株式会社山城経営研究所(担当:寿)
TEL 03-3264-2100 FAX 03-3234-9988
E-mail: name@kae-yamashiro.co.jp
URL: http://www.j-keieikyoku.jp/

印刷 株式会社フジヤマ印刷 〒03-3260-3801
E-mail: fujiyama@mx7.ttcn.ne.jp